

九州IoT実装推進ワーキンググループ 第五回会合 議事概要

■日 時 令和2年2月7日（金）13:30～17:00

■場 所 城彩苑 多目的交流施設（熊本市中央区二の丸1番1-1号）

■参加者 36団体、58名

=====《議事内容》=====

1. 地域IoT実装推進状況の紹介
2. 地域におけるIoT実装推進に向けた様々な取り組み状況の紹介
3. 令和2年度予算 各省IoT関連施策説明
4. 各自治体からのIoT取り組み事例紹介
5. その他（九州におけるオープンデータ状況紹介）

=====

1. 地域IoT実装推進状況の紹介

下記より、説明資料に基づく発表がなされた。

- (1) 多久市：シェアリングエコノミー
- (2) 島原市：ICT技術で拓く島原漁港 陸上シオアワビ養殖業の未来事業
- (3) ハイパーネットワーク社会研究所：視覚障がい者の自律的外出支援サービス

2. 地域におけるIoT実装推進に向けた様々な取り組み状況の紹介

下記より、説明資料に基づく発表がなされた。

- (1) IoTデザインガールin鹿児島：IoTデザインガールプロジェクト
- (2) 都城市：地域IoT実装のための計画策定・推進体制構築支援事業

3. 令和2年度予算 各省IoT関連施策説明

下記より、説明資料に基づく発表がなされた。

<発表機関>

総務省、九州農政局、九州経済産業局、九州厚生局

4. 各自治体からのIoT取り組み事例紹介

下記より、説明資料に基づく発表がなされた。

<発表自治体>

熊本県 ※他自治体は資料提供のみ

5. その他（九州におけるオープンデータ状況紹介）

下記より、説明資料に基づく発表がなされた。

- (1) 九州におけるCodeforの状況：(株)ローカルメディアラボ
- (2) オープンデータ推進のポイント：(一社)九州テレコム振興センター

6. 質疑応答・意見交換

座長の進行により、以下のとおり、質疑応答・意見交換がなされた。

(1) 地域 IoT 実装推進状況の紹介

<視覚障がい者外出支援システムの仕組み>

(総務省九州総合通信局)

車と自転車の動いているもののみを認識して処理をし、危険を回避するシステムであると考えてよいのか。

(ハイパーネットワーク社会研究所)

今回の検証事業では限られた時間と対象物に絞って行った。データセットと言われる考え方で、データを多く集めれば全ての対象物を認識できるようになる。

<機器のメンテナンス>

(事務局)

ICT 機器やバッテリーなどのメンテナンスの内容や頻度はどうなのか。

(島原市)

メンテナンスは、清掃程度で養殖が陸上であることから清掃もし易く2か月に1回程度である。海上になると状況は大きく変わると考えられ、陸上というメリットがある。このため、電源も陸上なので安定的に供給できており、問題はない。

<人と仕事のマッチング方法>

(座長)

地域の方のスキルの共有で、人と仕事が繋がるのが大事であると理解したが、それぞれをマッチングされるうえで工夫されたことなどは何か。

(多久市)

「TABICA」という観光プラットフォームのサイトを活用し、マッチングしている。ただし、サイトに掲載することやメール・SNSなどは、高齢の方は自身ですることは難しいので、観光協会が間に入って支援している。

(2) 地域における IoT 実装推進に向けた様々な取り組み状況の紹介

<フレームワーク活用による従来計画との比較>

(事務局)

新しい考え方やフレームワークの活用により、政策などの計画の進め方で従来より良かったと感じられる点はないか。

(都城市)

ロジックツリーなどで1つの問題点に対し、課題を漏れなく書き出ししていく仕組みで各種事業をスタートしてきたが、方向性をよく分析し、計画の精度が高まったと考えている。補助金などのお金の分野においては、従来、市のフレームになかった様々な助言をいただきながら事業を進めている。

<農作業適正マッチングアプリへの自治体の関わり方>

(九州厚生局)

農作業適正マッチングアプリへの自治体の関わり方を教えてほしい。また、このマッチングアプリは現在機能しているのか。

(IoT デザインガール in 鹿児島)

アプリについては、現在企画段階である。農業で地域が成り立っていることもあることから、地域の方を支援することで地域が活性化するよう自治体には是非関わってもらいたいと考える。なお、本件についてはこれから実証試験に入るため、そういった取り組みができるように考えていきたい。

<チームでうまく検討していくための仕組みや工夫>

(座長)

課題をICTを活用して解決するため、チームでうまく検討していくための仕組みや工夫などあれば教えてほしい。

(IoT デザインガール in 鹿児島)

現在のところ、講演者に得意な方を招いたり、企画に対し助言いただいたり、サポート的な位置付けで支援をしていただいくなどして、実装に向けて取り組んでいきたい。

<ペーパーレス化の取り組みや課題>

(ソフトバンク株)

紙ベースをデジタルデータに変換するAI-OCRによって、その後のRPAが進められると考えられるが、行政はペーパーレス化が進んでいないように感じる。行政のペーパーレス化の今後の取り組みや課題があれば教えてほしい。

(都城市)

まずは、マイナンバーポータルの仕組みについて、周知徹底などを図っていく必要があることが課題である。ペーパーレス化の観点で本市においては、押印の削減の取り組みをしており、インターネット上から申請されてくるものは、電子上で対応するなどしていきたいと考えている。

(3) 令和2年度予算 各省IoT関連施策説明

<介護ロボットの導入支援>

(事務局)

介護ロボットの導入支援事業における補助金交付の対象を教えてほしい。

(九州厚生局)

介護事業者が導入する際の補助金である。また、ロボットなどの開発についても補助金の対象となる。

<農業の自動化への支援>

(座長)

農業の自動化はかなり進んでいるが、その開発の予算は補助金などで支援しているのか。

(九州農政局)

地方自治体や研究機関、企業、大学、農業者などでコンソーシアムを作って、地域全体で定めた目標に向かって大規模に事業を行っている。その中のメニューの1つとして、農作物を収穫する自動化の機械を開発するなどの支援もある。

<総務省アドバイザー制度>

(事務局)

地域情報化アドバイザーの数が飽和状態になっている。アドバイザーを個人ではなく、地域情報化の活動を行っている団体が多くあるため、アドバイジングをそういった団体に地方毎で依頼するなどの仕組みを創ってはどうか。

(総務省)

個人であると1年を通してずっと派遣することが出来ないなど限界があることや派遣した効果がどうなのかも見極めることが必要である。制度見直しの観点では、提案は今後の検討の一助としたい。

7. 座長からの講評

<地域IoT実装推進状況について>

多久市の取り組みは、スキルの共有で効果も上がっていると考え。また、地域の企業と自治体が協力して非常に良い。島原市の取り組みは、問題の発端、問題を抱える人思いをどうしても解決したいという強い思いが感じられた。IoT活用により効果が出ている事例であると感じた。ハイパーネットワーク社会研究所の取り組みは、視覚障がい者の外出時の問題を把握して解決に向けしっかり取り組まれている。商品化に繋がらないと普及しないとのことであるので、商品化に向けてしっかり進んでいてもらいたい。我々、工学者には、「多様な要求に答えてこそその技術」と言われる言葉があり、今回のような障がい者に向けた技術というのが、正にこの言葉のようである。

<地域におけるIoT実装推進に向けた様々な取り組み状況について>

IoTデザインガール in 鹿児島の取り組みは、地域IoT官民ネットでしたことをキチンと継続されており、素晴らしかった。色々な課題をチームで取り組んでおり興味深かった。都城市は、行政の効率化に様々な取り組みされている。企画段階の面白い施策が多くあり、今後に期待したい。

<各省庁施策説明について>

総務省は、Society5.0関連で筆頭に幅広い案件に対し予算が確保されているため、皆様は是非活用していただくと良い。九州農政局は、農業は非常に自動化が進んでいる印象を受けた。九州経済産業局は、幅広い案件に多くの予算を確保されている。ポスト

5Gでは総務省との関連した動きも出てきそうである。色んな方向から取り組んでいけば、幅広い活動ができるのではないかと感じた。九州厚生局は、介護ロボットや見守り支援などICT利活用が進んでおり、今後更に進むと良いと考える。

<九州におけるオープンデータ状況紹介について>

「シビックテック」という言葉が出てきたが、北九州市では「シビックプライド」という言葉をよく耳にする。市民がプライドを持って自分たちがまちを造り、行動しているということであり、そこにICTが使われると面白い状況にならないかと思っている。

オープンデータの自治体の動向に関しては、九州は低調であることを認識した。また、小規模自治体は自治体内の人員構成上、色々な係を受け持ち1人でやっているところが大変であるということが分かった。大学内も同じような状況にあるため、身につまされている。

<全体的な講評>

大学関係者としての立場から話をさせていただくと、18歳人口は1992年では約200万人であったが、今や約100万人になっており、社会に出てくる人の数は半分になっている。九州でいうと減少率が高いのが、長崎県・佐賀県の約15%減少、熊本県は7~8%、福岡県は少なく2%程度となっている状況であるが、九州の減少は少なく、東北地方の方が減少率は高い。このような社会状況の中、ICTを活用し、新しい人材をどう育成していくかが大変重要であると考えている。数年前に大学で新年の挨拶の際、2030年を想定するとどんな世界か、不透明な未来に対し、困難を乗り越えていく人材をどう育てるか、どんな能力が必要かなどを考えてみたことがある。その時は、「2030年の社会を変革し未来を創造する、変革力があるコンピテンスを備えた人材を育てないといけない。そのために、教育機関は準備をすることが必要」と申し上げた。教育機関だけではなく、社会に出てからも継続的にこの能力を身に付けていくことが必要であろうと考え、具体的な能力としては、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」である。特に対立とジレンマは常にあり、即ち多様な人達が集まっていることが前提であることを認識したうえで、ジレンマなどを乗り越えていこうということが大事であると考えている。今回のように集まっていたいただいた方々こそが、このような文化を築いていただくと、若い人達もついて来るのではないかと考えながら、ワーキングでの話を聞かせていただいた。

ワーキングを総括すると、全体的に各地域で知恵を出し合い、生み出した活動を幅広く行っていると感じた。課題を認識して、IoTやAIを活用して解決する意識を向上させる活動をされていることは、敬意を表する。未来に向かってということでは、ある雑誌の編集者達を書いた言葉で、「未来は偏在する」ということを思い出す。つまり、未来はどこかに既にあり、今ないものが未来にあるはずがないということ。小さいけど今どこかにあるもの、皆さんが今作っているもの1つ1つが未来になるということである。昔、モバイルマネーがケニアで進んだのは、不便であること、銀行が頼りにならないからということが理由であった。日本も世界標準にとらわれず物凄い携帯電話を

造った経緯があり、世界はその携帯電話を参考にして今のスマートフォンが造られたとも言われている。こうして皆さん達がなさっていることが、同じように未来の種になっていると思っている。最後に SDGs の中では、パートナーシップで目標を達成しようと掲げているが、連携やチームワークといったことで解決しないと、とても解決できない大きな課題が多いということである。このような形で集まっていた皆さんが力を合わせて、色々な課題を解決されていくことが重要であり、皆さんの活動に改めて敬意を表したい。

以上